

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、これまでの天候が順調に推移したことなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締まりは緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、作付時期の価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年度の干ばつや天候不順による単収低下も回復したことなどから、EU、ロシア、米国等で増産となり、世界全体では前年度より73.0百万トン増加（12.0%）し、682.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.4百万トン下方修正されたが、主要生産国には変動がなかった。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、米国、ロシア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より31.4百万トン増加（5.1%）し、646.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.4百万トン下方修正されており、国別には米国が上方修正、EUが下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、11.0百万トン増加（9.5%）し、128.0百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、EU、オーストラリア等で輸出量の増加が、昨年輸出量が急増した米国や生産量の減少が見込まれるアルゼンチンで輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、エジプトで輸入量の増加、モロッコ、EU、アルジェリア等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.7百万トン上方修正されており、国別にはEU、アルゼンチン、ウクライナ等の輸出量、EU、エジプトの輸入量が上方修正され、カナダの輸出量、インドネシア、モロッコの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、ロシア等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より35.7百万トン増加（29.2%）し、158.1百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も24.5%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.3百万トン上方修正されており、国別にはカナダ、EU、中国が上方修正され、ロシア、米国が下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	595.6	609.1	682.1	▲ 2.4	12.0
EU-27	124.9	119.4	150.3	-	25.8
中国	108.5	109.3	113.0	-	3.4
インド	69.4	75.8	78.6	-	3.7
米国	49.2	55.8	68.0	-	21.9
ロシア	44.9	49.4	63.7	-	28.9
カナダ	25.3	20.1	28.6	-	42.7
オーストラリア	10.8	13.8	21.5	-	55.4
消費量	615.2	614.9	646.3	▲ 2.4	5.1
うち飼料用	106.2	94.1	118.0	▲ 1.7	25.4
EU-27	125.5	117.7	127.5	▲ 2.0	8.3
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.7	77.6	-	2.5
ロシア	36.4	37.7	41.2	-	9.3
米国	30.9	28.6	34.1	0.6	19.4
パキスタン	21.9	22.4	22.6	-	0.9
トルコ	16.7	16.8	16.9	-	0.6
貿易量	111.6	117.0	128.0	2.7	9.5
(輸出)					
米国	24.7	34.4	26.7	-	▲ 22.5
カナダ	19.4	16.1	17.5	▲ 1.5	8.4
オーストラリア	8.7	7.5	14.0	-	86.7
EU-27	13.9	12.3	21.0	1.5	71.1
ロシア	10.8	12.2	16.5	0.5	35.0
アルゼンチン	10.5	11.2	4.5	1.0	▲ 59.7
ウクライナ	3.4	1.2	11.0	1.0	787.1
(輸入)					
エジプト	7.3	7.7	8.2	0.4	6.5
ブラジル	8.1	6.7	6.0	-	▲ 10.6
アルジェリア	4.9	5.9	5.6	-	▲ 5.1
インドネシア	5.6	5.2	5.3	▲ 0.3	1.5
日本	5.7	5.7	5.5	-	▲ 3.5
EU-27	5.1	6.9	6.5	0.5	▲ 6.3
モロッコ	1.8	4.2	3.5	▲ 0.3	▲ 16.5
期末在庫量	128.2	122.4	158.1	2.3	29.2
中国	38.5	41.0	46.4	0.1	13.3
米国	12.4	8.3	19.0	▲ 0.4	127.7
EU-27	14.0	10.4	18.7	1.0	79.4
オーストラリア	4.4	4.7	5.8	-	24.2
インド	4.5	6.4	7.2	-	12.5
ロシア	2.4	2.3	8.6	▲ 0.5	273.9
カナダ	6.8	4.8	8.1	1.5	67.6
期末在庫率	20.8%	19.9%	24.5%	0.4	4.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より12.2百万トン増加（21.9%）し、68.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より5.0百万トン増加（19.4%）し、34.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.7百万トン減少（▲22.5%）し、26.7百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、10.7百万トン増加（127.7%）と大幅に積み増しされ、19.0百万トンとなり、期末在庫率も31.2%（18.0ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量が飼料用需要を中心に0.6百万トン上方修正された。また、輸入量が0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.4百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度冬小麦の作柄は、優良が7%と前年度の同時期や最終に比べ低く、優良～普通までの合計では73%と前年度の最終の76%を3ポイント下回っている。また、作付面積は、2008/09年度より1.7百万ha減少（▲7%）し、17.4百万haとなっている。

出穂率は主要18州で平均で、14%と（過去5年の平均に比べて2ポイント）進展しているが、テキサス州とオクラホマ州南部で干ばつが発生しており、冬小麦の作柄に影響が出ている。今後の天候に注視が必要である。

2009/10年度の春小麦については、レッド川の洪水に代表されるような雨がちな天候からノースダコタ州、サウスダコタ州で作付けが遅れている等、主要6州で6%と（過去5年の平均に比べて5ポイント）遅れており、今後の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース63.3%）
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度10.0%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度20.8%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.2	55.8	68.0	-	21.9
消費量	30.9	28.6	34.1	0.6	19.4
うち飼料用	3.2	0.4	6.8	0.5	1558.5
輸出量	24.7	34.4	26.7	-	▲22.5
輸入量	3.3	3.1	3.4	0.1	10.7
期末在庫量	12.4	8.3	19.0	▲0.4	127.7
期末在庫率	22.3%	13.2%	31.2%	▲1.0	18.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.54	-	9.2
単収(t/ha)	2.60	2.70	3.02	-	11.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗及び作柄(4月19日現在)

〔生育進捗状況（2009/10年度冬小麦、2009/10年度春小麦）〕

冬小麦(主要18州)

出穂率 14%（平年差：+2 p、前年差：▲7 p）

春小麦(主要6州)

作付率 6%（平年差：▲15 p、前年差：▲13 p）

〔作柄（2009/10年度冬小麦：主要18州、2008/09年度春小麦：主要6州）〕

単位: %

		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2009/10	7	36	30	14	13
	前年度同時期	8	37	34	13	8
	前年度最終	10	36	30	14	10
春小麦	2008/09	14	41	28	12	5
	前年度同時期	14	52	21	8	5
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、作付けの増加などから前年度より8.5百万トン増加(42.7%)し、28.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.9百万トン増加(30.8%)し、8.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.4百万トン増加(8.4%)し、17.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.3百万トン増加(67.6%)し、8.1百万トンとなり、期末在庫率も31.4%(9.9ポイント増)と回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、輸出量が1.5百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が1.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度は生育の遅れによって収穫が遅れていたが、9月頃無事終了した。2009/10年度の小麦の作付面積について、カナダ農務農産食料省(AAFC)は前年度より0.79百万ha減少(▲7.8%)し、9.40百万haとなると推計している。4月現在、マニトバ州南部を除いて、降水量が少なく、作付けに向けて土壌水分が不足している。今後の天候に注視が必要である。

ウ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産からほぼ回復し、前年度より7.7百万トン増加(55.4%)し、21.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加(4.0%)し、6.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から6.5百万トン増加(86.7%)し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.1百万トン増加(24.2%)し、5.8百万トンと積み増しされるが、期末在庫率は28.3%(5.7ポイント減)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は11月から12月頃終了した。2009/10年度の小麦の作付については、クイーンズランド州南部では、11月～12月及び2月に十分な降雨があった。今後の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2008年数量ベース20.4%)
世界の生産量シェア 6位 (2008/09年度 4.2%)
輸出量シェア 3位 (2008/09年度13.7%)

表-3 カナダの小麦需給(市場年度:8月～翌年7月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.3	20.1	28.6 (28.6)	-	42.7
消費量	9.0	6.3	8.2 (8.6)	-	30.8
うち飼料用	4.8	2.1	3.5 (3.9)	-	69.9
輸出量	19.4	16.1	17.5 (17.8)	▲ 1.5	8.4
輸入量	0.3	0.4	0.4 (0.0)	-	▲ 2.6
期末在庫量	6.8	4.8	8.1 (6.8)	1.5	67.6
期末在庫率	23.9%	21.5%	31.4% (25.8%)	7.2	9.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.03 (10.03)	-	16.1
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.85 (2.85)	-	22.8

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (March 6, 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2008年数量ベース16.1%)
世界の生産量シェア 8位 (2008/09年度 3.2%)
輸出量シェア 5位 (2008/09年度10.9%)

表-4 オーストラリアの小麦需給(市場年度:10月～翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.8	13.8	21.5 (21.4)	-	55.4
消費量	7.4	6.2	6.5 (6.8)	-	4.0
うち飼料用	4.7	3.5	3.8 (3.8)	-	7.1
輸出量	8.7	7.5	14.0 (11.7)	-	86.7
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 27.3
期末在庫量	4.4	4.7	5.8 (…)	-	24.2
期末在庫率	27.3%	34.0%	28.3% (…)	-	▲ 5.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.80	12.70	13.50 (13.55)	-	6.3
単収(t/ha)	0.92	1.09	1.59 (1.58)	-	45.9

資料:USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (February 2009)」

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における義務的休耕率が一時的に0%と設定されたことによる作付面積の増大や天候に恵まれたことによる単収の増加などにより、前年度より30.9百万トン増加(25.8%)し、150.3百万トンと過去最高を記録する見込みである。

消費量は、とうもろこし等の価格高騰により飼料用需要増加が見込まれることから前年度より9.8百万トン増加(8.3%)し、127.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから8.7百万トン増加(71.1%)し、18.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は8.3百万トン増加(79.4%)し、18.7百万トンとなり、期末在庫率も12.6%(4.6ポイント増)と回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、飼料用需要が前月と比べて減少したため、消費量が下方修正された。また、輸出が順調に伸びていることを受け、輸出量が1.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は9月頃終了した。2009/10年度の冬小麦に関し、フランス、イタリアで冬期の降雨のため作付が遅れた。英国でも秋の悪天候や市場の低価格のため作付面積が減少した。

【貿易情報】穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収が増加し、前年度より3.7百万トン増加(3.4%)し、113.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.0百万トン減少(▲73.6%)し、0.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は5.4百万トン増加(13.3%)し46.4百万トンとなり、期末在庫率も43.1%(4.7ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、輸入量が0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は6月頃終了した。

2009/10年度の冬小麦については、干ばつが発生していたものの、2月下旬から降雨があり、見通しが改善されている。なお、小麦赤さび病の被害を受けた面積が昨年より拡大する見込みであり、引き続き、天候に注視が必要である。

【貿易情報】2007年12月に輸出還付を取り消し2008年1月から輸出税を賦課しているが、輸出税率が2008年12月より引き下げられている(20%→3%)。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

世界の生産量シェア1位(2008/09年度22.0%)
輸出量シェア2位(2008/09年度16.4%)

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.9	119.4	150.3 (151.3)	-	25.8
消費量	125.5	117.7	127.5 (129.1)	▲2.0	8.3
うち飼料用	60.2	52.4	60.0 (57.7)	▲2.0	14.4
輸出量	13.9	12.3	21.0 (21.6)	1.5	71.1
輸入量	5.1	6.9	6.5 (6.8)	0.5	▲6.3
期末在庫量	14.0	10.4	18.7 (17.4)	1.0	79.4
期末在庫率	10.1%	8.0%	12.6% (11.5%)	0.7	4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.47	24.66	26.77 (...)	-	8.6
単収(t/ha)	5.10	4.84	5.61 (...)	-	15.9

資料:USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、
[Grain:World Markets and Trade]、
[World Agricultural Production]、
IGC [Grain Market Report (26 March 2009)]

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度16.6%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	108.5	109.3	113.0 (112.5)	-	3.4
消費量	102.0	104.0	107.0 (...)	-	2.9
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (...)	-	50.0
輸出量	2.8	2.8	0.8 (0.8)	-	▲73.6
輸入量	0.4	0.1	0.2 (0.2)	0.1	300.0
期末在庫量	38.5	41.0	46.4 (...)	0.1	13.3
期末在庫率	36.7%	38.3%	43.1% (...)	▲0.2	4.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.61	23.72	24.00 (...)	-	1.2
単収(t/ha)	4.59	4.61	4.71 (...)	-	2.2

資料:USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、
[Grain:World Markets and Trade]、
[World Agricultural Production]、
IGC [Grain Market Report (26 March 2009)]

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.8百万トン増加（3.7%）し、過去最大の78.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.9百万トン増加（2.5%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（300.0%）し、0.2百万トンとなる見込みである。）

輸入量は前年度より1.9百万トン減少（▲100.0%）し、0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.8百万トン増加（12.5%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も9.3%（0.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

インドにおける2008/09年度の小麦の収穫は、昨年4月～5月に順調に終了した。2009/10年度の小麦の作付面積は、前年度の2,800万haから2,980万haに増加する見込みであるが、主要産地のラージャスターン州で大雨や雹が降ったこと等が影響して生産量は減少する見込みである。引き続き、天候に注視が必要である。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。なお、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことや、生育期に天候に恵まれたことなどから、前年度より14.3百万トン増加（28.9%）し、63.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より3.5百万トン増加（9.3%）し、41.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから4.3百万トン増加（35.0%）し、16.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、6.3百万トン増加（273.9%）し、8.6百万トンとなり、期末在庫率も14.9%（10.3ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、近隣諸国への輸出が好調なことから輸出量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.5百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦は、作付面積は減少したが、一部の冬枯れを除いて、作柄は良好な見通しである。2009/10年度の春小麦は、小麦の相場が低価格であることや経済危機の影響で作付が減少する見込みである。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度11.5%））

表-7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	78.6 (78.6)	-	3.7
消費量	73.4	75.7	77.6 (…)	-	2.5
うち飼料用	0.3	0.2	0.1 (…)	-	▲ 50.0
輸 出 量	0.2	0.1	0.2 (0.5)	-	300.0
輸 入 量	6.7	1.9	0.0 †	-	▲ 100.0
期末在庫量	4.5	6.4	7.2 (…)	-	12.5
期末在庫率	6.1%	8.5%	9.3% (…)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	28.15 (…)	-	0.5
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.79 (…)	-	3.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

（世界の生産量シェア5位（2008/09年度 9.3%） 輸出量シェア4位（2008/09年度12.9%））

表-8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	63.7 (63.7)	-	28.9
消費量	36.4	37.7	41.2 (41.6)	-	9.3
うち飼料用	14.1	15.1	17.2 (15.8)	-	14.3
輸 出 量	10.8	12.2	16.5 (15.8)	0.5	35.0
輸 入 量	0.9	0.4	0.3 (0.2)	-	▲ 31.8
期末在庫量	2.4	2.3	8.6 (9.2)	▲ 0.5	273.9
期末在庫率	5.0%	4.6%	14.9% (16.0%)	▲ 1.0	10.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	26.70 (…)	-	9.0
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.39 (…)	-	18.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付の減少や生育不良などから前年度より8.4百万トン減少（▲50.0%）し、8.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並の5.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから6.7百万トン減少（▲59.7%）し、4.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は1.1百万トン減少（▲71.9%）し0.5百万トンとなり、期末在庫率も4.7%（5.1ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測から輸出量が1.0百万トン上方修正されたことと、2006/07年度の実産量が0.8百万トン、2007/08年度の実産量が0.5百万トンそれぞれ上方修正されたことにより2008/09年度の期首在庫が上方修正され、その結果、期末在庫量が0.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の実産量は12月頃終了した。主要産地での激しい干ばつによる播種の遅れ、作付面積の縮小、11月の霜害等の影響に加え、施肥量の減少があり、生産量は大幅に減少する見込みである。

【貿易情報】

輸出登録手続きは2008年9月中旬から、干ばつによる生産減少の影響を見極めるため停止しており、手続きの再開時期は未定である。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、3月には大豆の輸出税引き下げを求めて穀物の売却を拒否するストライキを行った。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことや、生育時に天候に恵まれたことなどから、前年度より12.0百万トン増加（86.3%）し、25.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.5百万トン増加（11.6%）し、14.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから9.8百万トン増加（787.1%）し、11.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.6百万トン増加（39.2%）し2.1百万トンとなり、期末在庫率は8.4%（2.4ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、新規市場への輸出が伸びていることから、輸出量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.0百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦は、気候が例年より良好であったことから、冬枯れの被害は最小限となると見込まれている。

2009/10年度の春小麦の作付は、2月の寒波以降、天候が良好となったことから進展しているが、作付面積については減少の見込みである。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の輸出量シェア 8 位（2008/09年度 3.5%）

表－9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	16.0	16.8	8.4 (8.5)	-	▲ 50.0	
消費量	4.9	5.1	5.1 (5.1)	-	▲ 1.0	
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0	
輸出量	10.5	11.2	4.5 (3.6)	1.0	▲ 59.7	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	1.1	1.6	0.5 (0.5)	0.3	▲ 71.9	
期末在庫率	7.2%	9.8%	4.7% (5.7%)	2.9	▲ 5.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.29	5.76	4.20 (...)	-	▲ 27.1	
単収(t/ha)	3.03	2.92	2.00 (...)	-	▲ 31.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

（世界の輸出量シェア 6 位（2008/09年度 8.6%）

表－10 ウクライナの実産需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	14.0	13.9	25.9 (25.9)	-	86.3	
消費量	11.7	12.9	14.4 (14.0)	-	11.6	
うち飼料用	2.1	3.1	4.4 (2.9)	-	41.9	
輸出量	3.4	1.2	11.0 (10.0)	1.0	787.1	
輸入量	0.1	0.3	0.1 (0.1)	-	▲ 69.7	
期末在庫量	1.4	1.5	2.1 (4.0)	▲ 1.0	39.2	
期末在庫率	9.5%	10.8%	8.4% (16.7%)	▲ 4.4	▲ 2.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	7.05 (...)	-	18.5	
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.67 (...)	-	56.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」